

こまえ

平成27年(2015年)3月
通巻第60号

図書館だより

ホームページアドレス <http://www.library.komae.tokyo.jp>

モバイル版アドレス <http://mb.library.komae.tokyo.jp>



—今号のトピックス—

- ・子ども読書活動推進事業
- ・2014 年ベストリーダー
- ・聞かせて狛江の昔むかし
- ・利用支援サービス事業講演会
ほか

sim miki



子ども読書活動 推進事業

平成 26 年度取り組み

狛江市立図書館では、1年間を通じてさまざまな内容で子どもの読書活動に関する事業に取り組んでいます。この他にもブックスタート事業やセカンドブック事業などがあります。



藤田浩子さんのおはなし会 「おはなしおばさんの玉手箱」

平成 27 年 1 月 31 日 (土) 午前に乳幼児向けの「親子おはなし会」、午後は大人向けの「語りを聴く会」を実施しました。

4 月 23 日

「子ども読書の日」

バリアフリー絵本展

年齢別推薦図書リストの発行

7 月 30 日・31 日・8 月 1 日

「こども一日図書館員」

8 月 7 日

「科学あそび教室」

ぷよぷよたまごをつくろう

12 月 24 日

「クリスマスおはなし会」

1 月 31 日

「特別おはなし会」



3 月 1 日 (予定)

「読書のみちしるべ」発行

小学生向け推薦図書リスト

3 月 4 日 (予定)

「児童行事実技講座」

子どもたちと幸せな読書の出会い
のために (→2 面参照)

発表！ 2014年ベストリーダー

2014年1月から12月の1年間に、市内の図書館・図書室で貸出の多かった本のベストテンです。一般書・小説は、映画やドラマの原作が注目を集めました。児童書・絵本は、前年のベストテンにも名を連ねた本が引き続き人気を保っているようです。

一般書・小説

- | | |
|-----|---|
| 1位 | 新参者
東野 圭吾／著 講談社 913.6 ㌖ |
| 2位 | 夢幻花
東野 圭吾／著 PHP 研究所 913.6 ㌖ |
| 3位 | 疾風ロンド
東野 圭吾／著 実業之日本社 913.6 ㌖ |
| 4位 | ホテルローヤル
桜木 紫乃／著 集英社 913.6 サ |
| 5位 | 色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年
村上 春樹／著 文藝春秋 913.6 ム |
| 6位 | 魔境の女王陛下
田中 芳樹／著 講談社 (講談パルス) 913.6 ㌖ |
| 7位 | 禁断の魔術 (ガリレオ 8)
東野 圭吾／著 文藝春秋 913.6 ㌖ |
| 8位 | ナミヤ雑貨店の奇蹟
東野 圭吾／著 角川書店 913.6 ㌖ |
| 〃 | 舟を編む
三浦 しをん／著 光文社 913.6 ミ |
| 10位 | ベテロの葬列
宮部 みゆき／著 集英社 913.6 ミ |

児童書

- | | |
|----|--|
| 1位 | エルマーのぼうけん
ルース=スタイルス=ガネット／作 福音館書店 933 カ |
| 2位 | オバケちゃん
松谷 みよ子／作 講談社 913 マ |
| 3位 | かいけつゾロリ イシシ・ノシシ大ピンチ!!
原 ゆたか／作・絵 ポプラ社 913 ハ |
| 4位 | チョコレート戦争
大石 真／作 理論社 913 オ |

絵本

- | | |
|----|---|
| 1位 | はらぺこあおむし
エリック=カール／作 偕成社 E |
| 2位 | しろくまちゃんのほっとけーき
わかやま けん／絵 こぐま社 E |
| 3位 | おばけのバーバパパ
アネット=チゾン／作 偕成社 E |
| 4位 | ぐりとぐら
中川 李枝子／作 福音館書店 E |

佐藤凉子さん講演会

〈子どもと読書のコーディネーター〉

子ども読書活動推進事業

「子どもたちと読書の幸せな出会いのために」

子どもたちに物語の世界を届ける手法は、絵本の読み聞かせだけでなく多様にあります。耳からの読書につづき、自分で読むことの楽しさを知ってもらうために、子どもの読書に関わる大人は何をすべきでしょうか。公立図書館で司書として児童サービスに携わり、子どもたちと様々な読書活動を実践し、また、ストーリーテリングの名手でもある講師による講演会をぜひお楽しみください。

【日 時】平成 27 年 3 月 4 日 (水) 午前 10 時～正午

【会 場】狛江市防災センター4 階会議室

参加されたい方は、図書館事務室までご連絡ください。



聞かせて 狛江の昔むかし

かまくら じ だい
鎌倉時代のこと

井上 孝／著（狛江市文化財専門委員）

鎌倉幕府の正史である吾妻鏡によると、建久元（1190）年11月10日に、源頼朝は、後白河法皇の招きに応じて、武家政権を発足させて以来はじめて都に上ったとあります。そのとき総勢313人、畠山重忠を先頭に3列ずつの列をなして都大路を行進し、その39列目に駒江平四郎という武士がいたといえます。

その頃の多摩川・浅川流域には、白野の日奉氏を中心に同族的武士団である二宮、川口、由井、由木、長沼、平山、立川など地名を苗字にした各氏がいて、それぞれ源頼朝に忠誠を尽くしていたといえます。駒江平四郎も狛江郷を支配していた武士の棟梁ではなかったでしょうか。

ただし、当時の狛江郷は今よりずっと広く、江戸時代に書かれた「武蔵名勝図会」によると、井の頭池を「狛江の池」と言っていたといえますから、調布市、三鷹市を含む広い地域だったでしょう。

これも吾妻鏡の話ですが、承元2（1208）年6月26日、狛江入道増西が50余人の部下を引き連れて威光寺（武蔵国橋樹郡・現川崎市多摩区）の寺領に入り、実った稲を刈り取って持ち去ったという話があります。

そこで威光寺の僧円海が鎌倉幕府に訴えたところ増西は幕府から呼び出され、裁判の結果有罪とされ、鎌倉の永福寺で百カ日の宿直（勤務）を命ぜられたとあります。

江戸名所図会では、調布市にある祇園寺の「長（北東）の方向に「狛江入道跡祇園寺」があったと挿絵入りで書いていますし、今も調布市左須にある晃華学園の南斜面に「狛江入道

旧館地」という標柱が立っています。どちらに本拠があったかはわかりませんが狛江の地もその支配下にあったのではないのでしょうか。

お隣の喜多見には木田見武重（氏重とも言う）が館を築いていました。武重の父である江戸重長は当時江戸に館を築き、江戸を中心に大きな勢力をもっていた秩父系平氏の一族でしたが、治承4年（1180）に源頼朝が鎌倉入りをしたとき以来手柄があったことから木田見の地を拝領し、木田見氏を名乗っていました。

木田見氏の子孫がその後いつまで続いたかはわかりませんが、江戸時代の初めに旗本として駒井村を所領していた喜多見氏と何らかの関係があったのではないのでしょうか。

また、市内には鎌倉道といわれる古い道があります。調布市の入間町から御台橋一松原一田中橋一江東橋（東和泉3-2）一半縄の渡船場で多摩川を越す道です。江戸時代の地図にもある古い道ですが鎌倉時代にあったかどうかはわかりません。

この道を「鎌倉道」と言ったという起りは、明治36年の「狛江村会議会録」に「神代村入間境ヨリ寛東、小足立ヲ経テ和泉ヲ貫通スル鎌倉道」という記載があることによります。

また、元和泉1-15の民家の軒先に「鎌倉橋」と刻まれた橋石が今も残っているところからかなり古い頃から鎌倉道と呼ばれていたのでしょう。しかし、この道を行くと鎌倉に行くだろうという程度の伝承の道ではないのでしょうか。

利用支援サービス事業講演会を開催しました。

視覚障がい者の読書生活や点字絵本について理解を深めていただこうと、福音館書店 こどものとも第一編集部の中村悠子さんに講演をしていただきました。福音館書店では、平成 25 年に『ぐりとぐら』の誕生 50 周年を記念して、目の見える人も見えない人もいっしょに囲んで楽しめる『てんじつきさわるえほん りとぐら』を出版しました。中村さんはその出版に最初から携わった方です。この絵本を出版するきっかけ、製作工程でのご苦労などをお話していただきました。

《『てんじつきさわるえほん りとぐら』が生まれるまで》

〔開催日時〕 平成 26 年 12 月 7 日(日) 14 時～16 時

〔開催場所〕 西河原公民館 学習室 1

〔参加者〕 35 名



講演では、製作過程をプロジェクターで見ながら、原作の絵のすばらしさを損なうことなく樹脂印刷を本に載せていく困難、工夫などを語っていただきました。点訳に携わっている方、点字に興味のある方だけではなく、『ぐりとぐら』のファンの方も参加されていて、NHK の取材映像を見たり、実際の点字つき絵本をさわったり、中村さんの講演を興味深く聞き入っていました。

訃 報

宮尾登美子さん 死去

『櫛』『蔵』『天璋院篤姫』など、数々の名作を世に送り出した 狛江市ゆかりの作家で文化功労者の宮尾登美子さん（88 歳）が、去る 12 月 30 日、狛江市内のご自宅でお亡くなりになりました。

宮尾さんは、平成 9 年に中央図書館開館 20 周年記念事業の文学講演会を、また、平成 22 年には市制施行 40 周年記念事業として一日図書館長を務めるなど、市の文化行政に尽力してくださいました。

ご冥福をお祈りいたします。

編集後記

あの夏の猛暑が懐かしく感じる程に寒い日が続いています。風邪・インフルエンザに負けないう身体に十分な栄養をとるように、心にも読書という栄養補給を行ないましょう。

〈編集・発行〉

平成 27 年 2 月 28 日発行

狛江市立中央図書館

和泉本町 1-1-5

Tel 03-3488-4414

※図書館だよりは音訳版もあります。ご希望の方は中央図書館にお問い合わせください。